

たかみむすびじんじゃ
高御魂神社

神社番号 22 式内社 (名神大社)

周辺の神社 多久頭魂神社 (21) ほか

アクセス 厳原町豆殿 (つつ) の東の森に多久頭魂神社があり、その敷地内に多くの神社とともに鎮座。



周辺の雰囲気・環境など

対馬の南西部に位置する豆殿は、亀卜など独特の民俗が伝わる集落です。南は対馬海峡に面し、北東には龍良山 (たてらやま) 原始林が広がっています。

神社の近くには古代米・赤米の神田があり、敷地内には多くの神社が鎮座し、豆殿だけで1つの神話世界を形成しています。社殿の奥には、対馬最大といわれるクスノキの巨木がそびえています。

神社のプロフィール

元々は現在の豆殿中学校に位置していましたが、学校建設にともない、現在地 (多久頭魂神社境内) に遷座しました。

式内社のなかでも特に靈験あらたかとされる名神大社 (対馬には6社) のひとつです。日本書紀によると、5世紀、遣任那使の神託により、タカミスビが磐余 (奈良県) に進出しています。



周辺の雰囲気・環境など

対馬の北西部に位置する佐護は、対馬では珍しい農耕地帯であり、良港となる入り江に恵まれ、古代から集落が形成されていたと考えられています。

ツシマヤマネコの生息や野鳥の飛来など自然が豊かで、棹崎公園には環境省の対馬野生生物保護センターがあり、春・秋の野鳥の渡りの時期には、バードウォッチャーで賑わいます。

かみむすびじんじゃ
神御魂神社

神社番号 95

周辺の神社 天神多久頭魂神社 (94)

アクセス 上県町佐護湊から佐護川対岸へ橋を渡り、左手の小さな森の中に鎮座。

神社のプロフィール

佐護川の河口部の森のなかに鎮座しています。古事記には、カミムスビの性別をイメージさせる描写はありませんが、対馬のカミムスビは女房神と俗称され、御神体は日輪を抱いた女性の木像で、女神と考えられていたようです。

北 (佐護) に女神カミムスビ、南 (豆殿) に男神タカミスビがいて、その子神タクズダマが両地域で祭られ、対馬固有の天道信仰 (P29) の2つの中心地を形成していました。